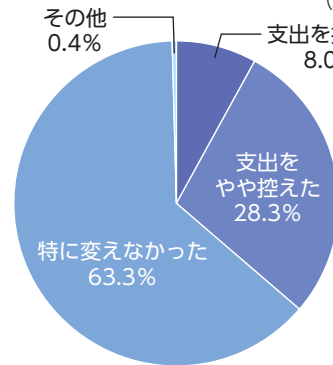


長崎県限定インターネットリサーチ「リサチャン」アンケート 消費税率引き上げ後の消費生活の変化について

◆支出を控えたのは4割弱

消費税率引き上げ後、家計の支出全体をどのように変えたのかを尋ねたところ、「特に変えなかった」人は63.3%に上り、消費行動を変えない人が多いことがわかりました。一方、「支出を控えた」(8.0%)、「支出をやや控えた」(28.3%)を合わせると支出を控えた人は36.3%でした。

消費税率引き上げ後の支出全体について (N=226)

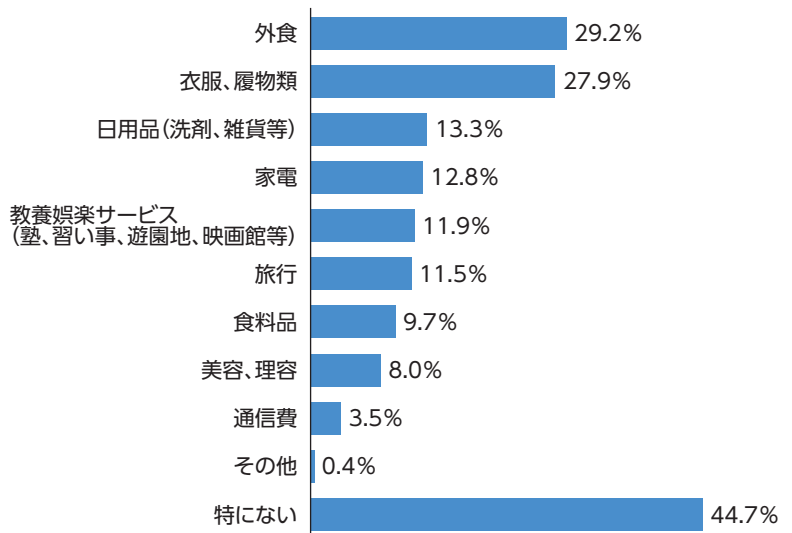


◆支出を控えたものは、外食や衣服類

消費税率引き上げ後に支出を控えた商品・サービスはどのようなものか複数回答で尋ねたところ、「外食」(29.2%)と「衣服、履物類」(27.9%)が3割近くに上り、以下、「日用品(洗剤・雑貨等)」(13.3%)、「家電」(12.8%)の順でした。

もっとも、特にないとの回答は44.7%に上り、消費増税をきっかけとして支出を見直す人とそうでない人に分かれる結果となりました。

消費税率引き上げ後に支出を控えた商品・サービス (N=226)

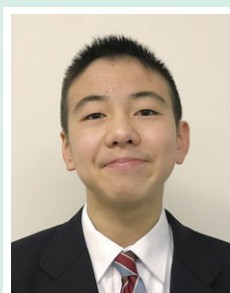


◆キャッシュレス決済の利用増、無駄な支出見直しの動きも

消費税率引き上げの際に支出を控えるためにどのような工夫をしているか尋ねたところ、年齢・性別にかかわらず「キャッシュレス決済の利用」が最も多くみられました。そのほか、「外食を

減らす」(40歳代女性)、「朝イチのスーパーに行き半額商品をゲットする」(30歳代女性)など食費を減らすといった節約術のほか、「家計簿をつける」(50代男性)、「生活習慣を見直し、余計な出費がないように心がける」(40代男性)などの意見もみられました。

※当研究所は、20年1月29日～31日の3日間、インターンシップ(就業体験)として、精道三川台高校1年生^{さくらいたくみ}櫻井琢仁君を受入れました。研修生として受け入れた櫻井君が当研究所の指導の下、本レポートの作成に携わりました。



精道三川台高校1年 ^{さくらいたくみ} 櫻井琢仁君

自分の持っている主観と、統計データから視ることのできる客観的な考えを照らし合わせることで自分には無かった考えを知ることができたことが、新たな一つの「学び」になりました。客観的に物事を見ることは難しく、統計データを分析することで客観的な意見や、全体の傾向を知ることができるので、統計データの意義や必要性を感じました。さらにデータだけではなく、背景にあるものを考えて分析することで得られる発見もあったので、「学び」を深めることができ、とてもよかったです。



軍艦島ミュージアムにて



長崎経済研究所にて

調査方法：長崎県内に居住する18歳以上男女をモニターとするアンケートサイト「リサチャン」により、県内在住の男女226名より回答を得ました。

調査期間：2020年1月23日(木)～1月26日(日)

回答者属性：【性別】男性97名、女性129名【年齢】10～20歳代16名、30～40歳代88名、50歳代以上122名